

2017/6/28 彦根市総合教育会議

# 就学前教育・保育の現状と課題

-国・県の動向から幼児教育の意義を読み解く-



岐阜聖徳学園大学 西川正晃

## 学習指導要領など改訂の基本方針

○ 教育基本法や学校教育法が目指す普遍的な教育の根幹を踏まえ、グローバル化の進展や人工知能(AI)の飛躍的な進化など、社会の加速度的な変化を受け止め、将来の予測が難しい社会の中でも、伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を子供たち一人一人に確実に育む学校教育の実現を目指す。そのため、学校教育の中核となる教育課程や、その基準となる学習指導要領及び幼稚園教育要領(以下「学習指導要領等」という。)を改善・充実。

○ 現行学習指導要領等に基づく真摯な取組が、改善傾向にある国内外の学力調査の結果などに表れてきている一方で、判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べることや、社会参画の意識等については課題。社会において自立的に生きるために必要な「生きる力」の理念を具体化し、教育課程がその育成にどうつながるのかを分かりやすく示すことが重要。

平成28年10月31日教育課程部会 幼児教育部会（第10回）

資料1 次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめのポイント（※教育課程部会 掲載資料（PDF）へリンク）

# 「生きる力」とは

## ・幼稚園教育要領解説では

「遊びにおいて幼児の主体的な力が発揮され、生きる力の基礎ともいえるべき生きる喜びを味わうことが大切だ」

## ・保育所保育指針解説書では

「生きる力の基礎となる心情、意欲、態度を身に付けていくことであり・・・保育士等が一方的に働きかけるのではなく、子どもの自発的な活動としての遊びなどを通して様々な学びが積み重ねられることが大切です。」

## ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説では

「遊ぶ喜びを味わうことのできる場となることが大切である。その喜びこそが生きる力の基礎を培うのである。」

**遊びの重要性**

# 「生きる力」とは

## 遊び

幼稚園教育要領解説には 箇所

生活に必要な能力や態度などの獲得のためには、遊びを中心とした生活の中で、幼児自身が自らの生活と関連付けながら、好奇心を抱くこと、あるいは必要感をもつことが重要である。

幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保することが何よりも必要である。それは、遊びにおいて幼児の主体的な力が発揮され、生きる力の基礎ともいべき生きる喜びを味わうことが大切だからである。

保育所保育指針解説書には 箇所

子どもにとっての遊びは、遊ぶこと自体が目的であり、子どもは時間が経つのも忘れ、心や体を動かして夢中になって遊び、充実感を味わっていきます。

遊びたいという気持ちが高まり、遊びに夢中になり、十分に遊ぶことのできる環境であることが重要です。

子どもは遊びそのものを楽しみ、遊ぶことによって満足感や充実感を得ていきます。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説には 箇所

幼保連携型認定こども園では、園児の主体的な活動としての遊びを十分に確保することが何よりも必要である。

## 心が動く（思わず）から始まる活動・経験

### 幼稚園教育要領解説

幼児が様々な人やものとのかかわりを通して、多様な体験をし、心身の調和のとれた発達を促すようにしていくこと。その際、**心が動かされる**体験が次の活動を生み出すことを考慮し、一つ一つの体験が相互に結び付き、幼稚園生活が充実するようにすること。

### 保育所保育指針解説書

子どもが**思わず**触りたくなるような、動かしてみたくなるような、関わりたくなるような魅力ある環境を構成することが重要

### 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

**心を動かされる**というのは、驚いたり、不思議に思ったり、うれしくなったり、怒ったり、悲しくなったり、楽しくなったり、面白いと思ったりなど、様々な情動や心情が湧いてくることである。

## 繰り返す（遊び込む）活動・経験

### 幼稚園教育要領解説

幼児なりのやり方やペースで繰り返しいろいろなことを体験してみることで、その過程自体を楽しみ、その過程を通して友達や教師とかかわっていく中で幼児の学びがある。

### 保育所保育指針解説書

身近な環境に自ら働きかけ、好きな遊びに熱中したり、やりたいことを繰り返し行うことは、主体的に生きていく基盤となります。

### 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

身近な環境に自ら働き掛け、好きな遊びに熱中し、やりたいことを繰り返し行うことは、主体的に生きていく基盤である。

## 探究

心が動く  
(思わず)

湧き上がってくる疑問や関心  
に基づいて始まる。

くり返す

あらかじめ答えのない学習で  
あり、発展的かつスパイラル  
に繰り返されていく

学びに向かう力  
非認知能力

心が動き(思わず)遊びだし、くり返す(遊び込む)プロセス



学び

# 国の最新動向



文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

[会見・報道・お知らせ](#)
[政策・審議会](#)
[白書・統計・出版物](#)

[トップ](#) > [政策・審議会](#) > [審議会情報](#) > [中央教育審議会](#) > [初等中等教育分科会](#) > [教育課程部会](#) 幼児教育部会

## ● 教育課程部会 幼児教育部会

[報告等](#)
[開催案内](#)
[最新の議事要旨・議事録・配付資料](#)
[名簿](#)

---

### 報告等

平成28年08月26日  
[幼児教育部会における審議の取りまとめについて\(報告\)](#)

---

### 開催案内

平成28年10月17日  
[教育課程部会 幼児教育部会\(第10回\)の開催について](#)  
 【開催日時:平成28年10月31日(月曜日)10時30分~12時00分】

---

### 最新の議事要旨・議事録・配付資料

第10回【開催日時:平成28年10月31日(月曜日)10時30分~12時00分】

[配付資料](#)  
[これまでの議事要旨・議事録・配付資料の一覧はこちら](#)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/057/index.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/057/index.htm)



厚生労働省 Ministry of Health, Labour and Welfare

[テーマ別を探す](#)
[報道・広報](#)
[政策について](#)
[厚生](#)

[ホーム](#) > [政策について](#) > [審議会・研究会等](#) > [社会保障審議会\(保育専門委員会\)](#)

## 社会保障審議会(保育専門委員会)

回数	開催日	議題等
-	2016年12月21日 (平成28年12月21日)	保育所保育指針の改定に関する議論のとりまとめ
第10回	2016年12月21日 (平成28年12月21日)	(1)議論のとりまとめ(案)について 等 (2)その他
第9回	2016年11月24日 (平成28年11月24日)	(1)保育所保育指針の改定について (2)その他
-	2016年8月8日 (平成28年8月8日)	保育所保育指針の改定に関する中間とりまとめ
第8回	2016年8月2日 (平成28年8月2日)	(1)中間とりまとめ(案)について (2)その他
第7回	2016年5月31日 (平成28年5月31日)	(1)中間まとめ骨子(たたき台)について (2)その他
第6回	2016年5月10日 (平成28年5月10日)	(1)関係団体からのヒアリング) (2)中間まとめ構成(案) (3)その他
(第5回)	2016年4月27日 (平成28年4月27日)	(1)3歳以上児の保育について (2)全体の構成、総則について (3)その他

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/shingi-hosho.html?tid=314168>



## 1. 現行幼稚園教育要領等の成果と課題

○ また、近年、国際的にも忍耐力や自己制御、自尊心といった社会情動的スキルやいわゆる非認知的能力といったものを幼児期に身に付けることが、大人になってからの生活に大きな差を生じさせるという研究成果をはじめ、幼児期における語彙数、多様な運動経験などがその後の学力、運動能力に大きな影響を与えるという調査結果<sup>3</sup>などから、幼児教育の重要性への認識が高まっている。

○ さらに、平成27年度から「子ども・子育て支援新制度」が実施されたことにより、幼稚園等を通じて全ての子供が健やかに成長するよう、質の高い幼児教育を提供することが一層求められてきている。

○ このため、前述のような研究成果や調査結果を踏まえつつ、幼稚園のみならず、保育所、認定こども園を含めた全ての施設全体の質の向上を図っていくことが必要となっている。

## 1. 保育所保育指針の改定の方向性

（1）乳児・1歳以上3歳未満児の保育に関する記載の充実

（乳児・1歳以上3歳未満児の保育の重要性）

○近年、国際的にも、自尊心や自己制御、忍耐力といった社会情動的スキルやいわゆる非認知的能力を乳幼児期に身に付けることが、大人になってからの生活に大きな差を生じさせるといった研究成果などから、乳幼児期、とりわけ3歳未満児の保育の重要性への認識が高まっている。

（学びの芽生え）

○乳児期から、子どもは、生活や遊びの様々な場面で、主体的に周囲の人や物に興味を持ち、直接関わっていきこうとする。このような姿は「学びの芽生え」といえるものであり、生涯の学びの出発点にも結びつくものである。

○乳児から2歳児までの時期においては、子どもの発達が飛躍的に進み、様々な成長の段階の姿が見られるという特徴があることから、専門職である保育士によって、それぞれの子どもの発達過程に応じた「学び」の支援が、生活や遊びの場面で、適時・適切に行われることが重要である。また、その際、発達の連続性を意識するとともに、3歳以降の成長の姿についても意識して、保育を行うことが重要である。

## 1. 保育所保育指針の改定の方向性

（2）保育所保育における幼児教育の積極的な位置づけ

（幼児教育の一翼としての保育所保育）

○ 乳幼児期は、生活の中で、自発的、主体的に、環境と関わりながら、生涯にわたる人格形成の基礎を築いていく時期である。そのために適切な環境を整え、乳幼児の心身の調和のとれた発達を支援していくことは、幼児教育の充実という観点からも強く求められている。

（教育内容についての記載の在り方）

○ 幼児教育において育みたい資質・能力については、各学校段階を通じた教育課程の全体像等も踏まえた幼稚園教育要領改訂の議論において、「知識や技能の基礎」「思考力・判断力・表現力の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理されている。保育所保育においても、「健康、人間関係、環境、言葉、表現」の5領域の教育内容を踏まえ、子どもたちの自発的な活動である遊びや生活の中で、こうした資質・能力を一体的に育んでいくことが必要である。

# 認知能力

(Cognitive abilities)

IQテストなどで知られる言語、論理、記憶、空間把握能力など主に「脳の機能」に由来する能力。

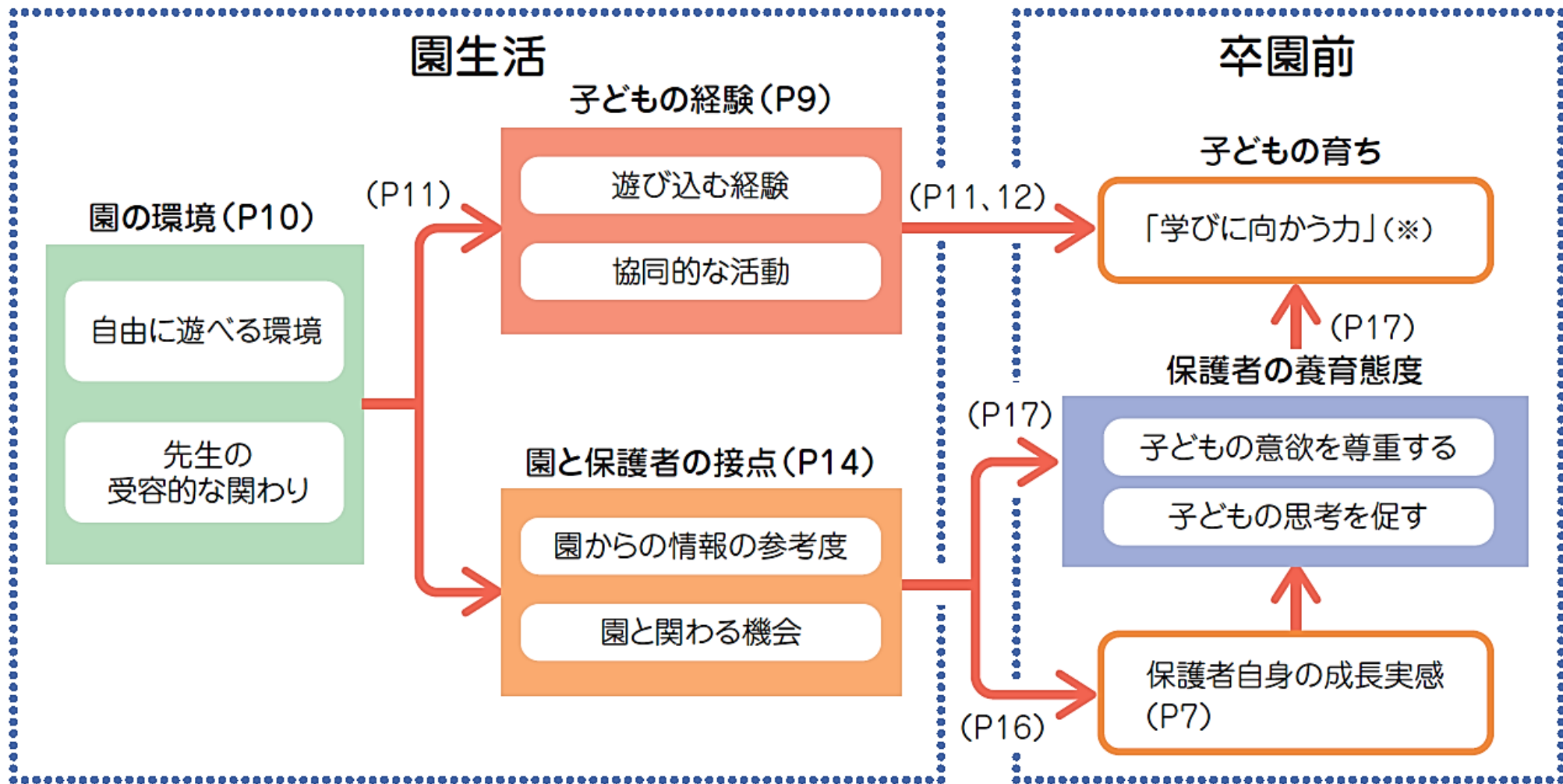
# 非認知能力

(Non-Cognitive abilities)

社会情動的スキルとも言われるもので、好奇心や柔軟性、協調性、忍耐力、ストレス対応力など「心の動き」に由来する能力。

非認知能力は、OECDでは社会情動的スキルと言う。IQなどで数値化される認知能力と違って目に見えにくいですが、「学びに向かう力や姿勢」とも言い表せる。

目標や意欲、興味・関心をもち、粘り強く、仲間と協調して取り組む力や姿勢が中心になる。



※「学びに向かう力」について

本調査では、子どもの育ちとして「好奇心」「協調性」「自己統制」「自己主張」「がんばる力」を「学びに向かう力」と設定して、園生活との関連を調べた。「学びに向かう力」は生涯にわたり、社会生活を営むうえで基盤となる力である。また、「幼児期から小学1年生の家庭教育調査」(ベネッセ教育総合研究所)において、小学校入学以降の学習や生活につながる幼児期の学びとして設定した3つの軸(「学びに向かう力」「文字・数・思考」「生活習慣」)のひとつである。

# 社会で大活躍する大人の要素

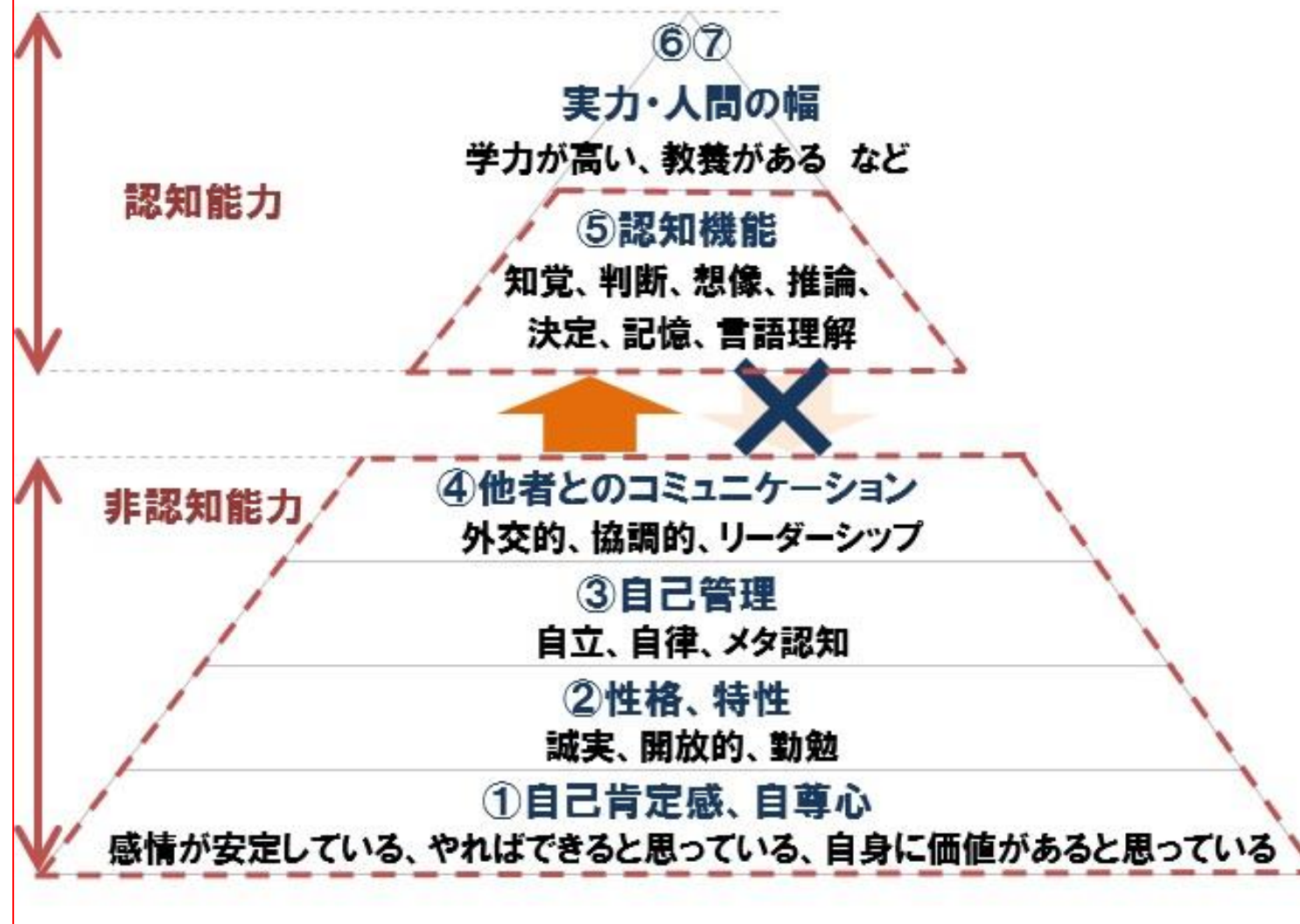
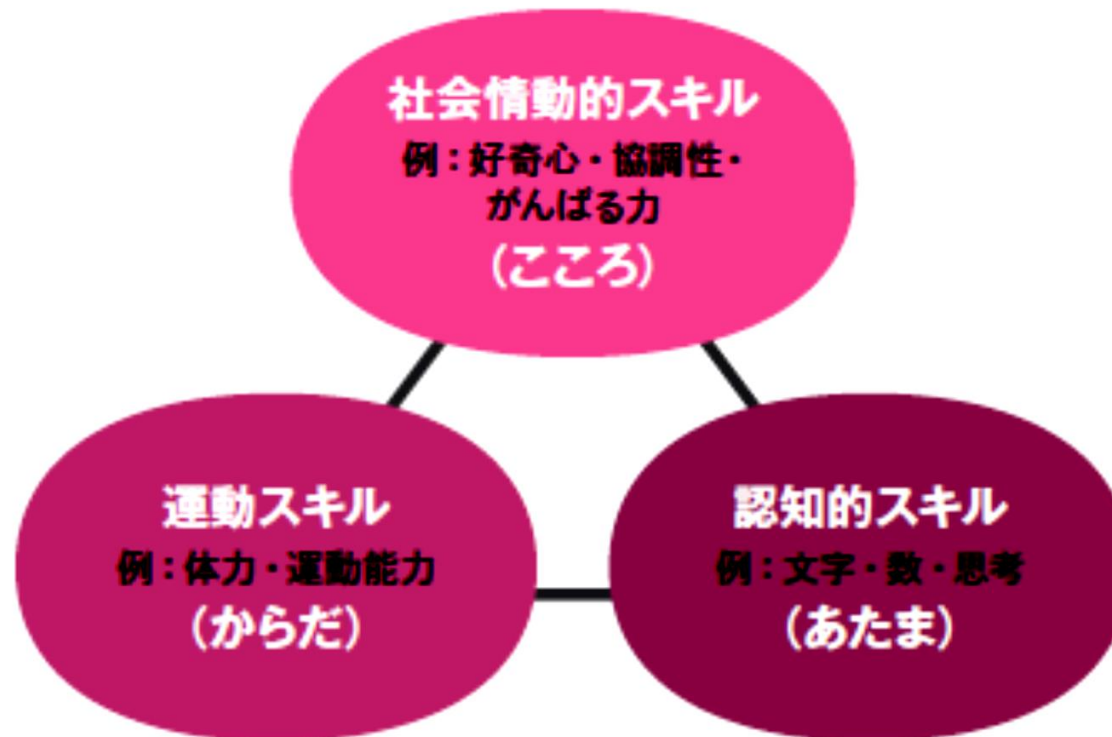
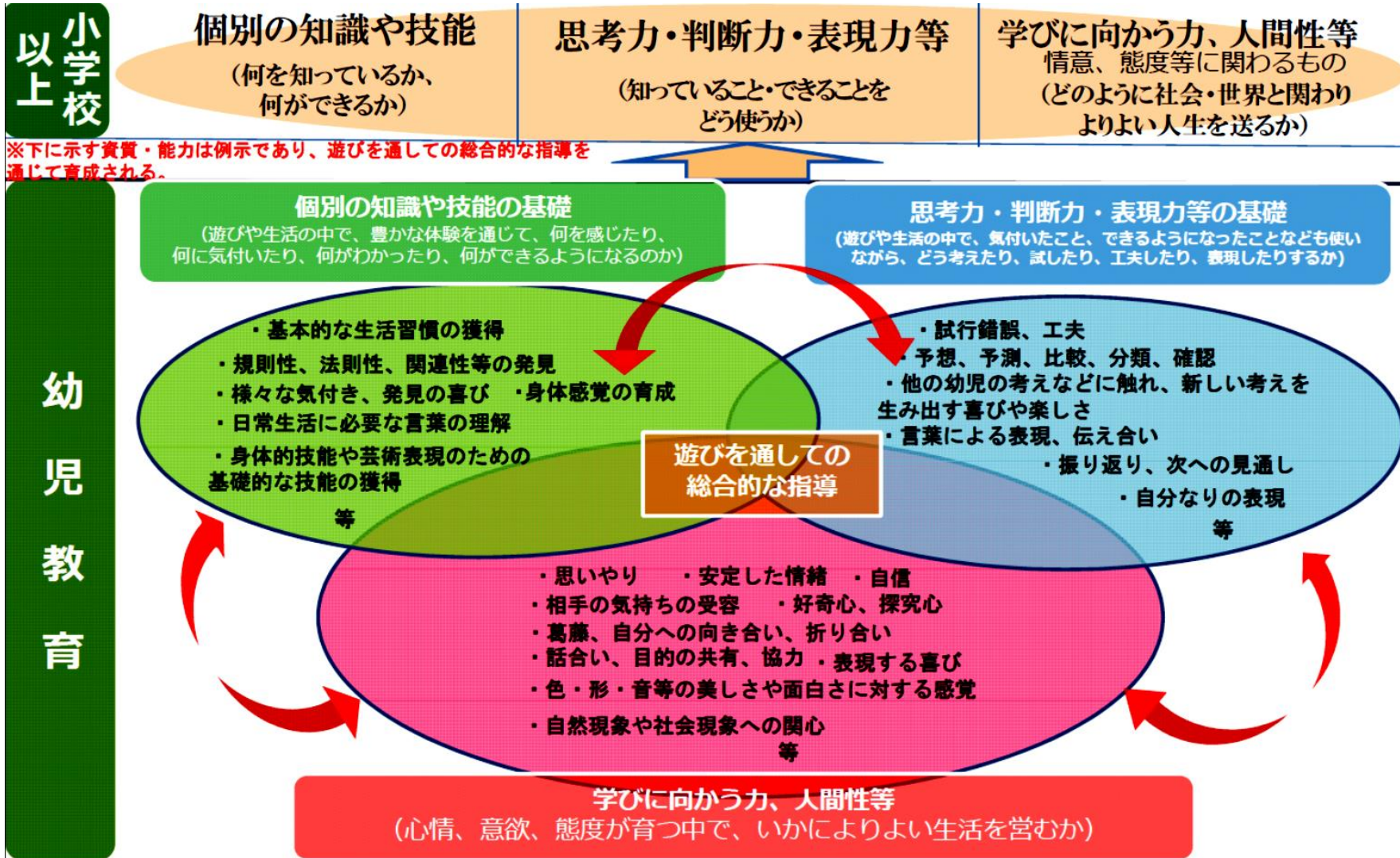


図1 認知・社会情動・運動の関係図



# 幼児教育において育みたい資質・能力の整理





# 「学びの基礎」の3つの要素からみる幼児期と児童期のつながりの概念図

幼児期の子どもは、遊びを中心とした生活の中で、様々な対象(人・もの・こと)との直接的・具体的な体験を通して学んでいきます。幼児期の教育は、5領域の内容を遊びや生活を通して総合的に学んでいく教育課程に基づいて実施されています。

## 幼児期

### 学びの芽生え

自己制御や  
自尊心などの  
非認知的能力

様々な遊びの中で、興味や関心をもち、頭も心も体も動かして、楽しんで取り組む。

身の回りの「人・もの・こと」に直接関わり、幼児なりのやり方で、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。

生活に必要な活動を自分でし、友達と生活する中でできまりの大切さに気付いたり、考えて行動したりする。

## 遊び

### 幼児教育

- ・5領域(健康、人間関係、環境、言葉、表現)を総合的に学んでいく教育課程等
- ・子どもの生活リズムに合わせた1日の流れ
- ・身の回りの「人・もの・こと」が教材
- ・総合的に学んでいくために工夫された環境の構成 など

児童期の教育は、各教科の学習内容を系統的に配列した教育課程に基づいて実施されています。

## 児童期

### 学びの基礎

#### 主体的に学ぶ姿勢

意欲的に学習をする能力や態度、学ぶことの楽しさや成就感の体得、知的好奇心をもつ。

#### 学びに向かう力

#### 学び方

具体的な活動や体験を通す。  
問題解決的な能力や態度、試行錯誤を繰り返してやってみる。

#### 探究的な学び

#### 学習規範

姿勢や態度、学習用具の使い方、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと。

#### 学びの自立

#### 学びに向かう力

### 接続期

5歳児3学期  
アプローチカリキュラム

安心 成長 自立

1年生1学期  
スタートカリキュラム

## 学習

### 小学校教育

- ・各教科等の学習内容を系統的に学ぶ教育課程
- ・時間割に沿った1日の流れ
- ・教科書が主たる教材
- ・系統的に学ぶために工夫された学習環境 など

幼児期から児童期への接続期には、学校生活に円滑に移行していくためのアプローチカリキュラムやスタートカリキュラムが必要となります。

〔スタートカリキュラム スタートブック〕(国立教育政策研究所 平成27年1月)を参考に作成

# 幼児教育の内容と小学校教育の教科等との関連

中学年  
低学年

国語	算数	社会	総合的な 学習の時間	理科	音楽	図画 工作	体育	道徳	特別 活動
		生活科							

スタートカリキュラムを通じて、各教科等の特質に応じた学びにつなぐ

## 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

### 健康な心と体

充実感や満足感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせながら取り組むようになる。

### 自立心

自分でしなければならないことを自覚して行い、諦めずにやり遂げることで満足感や達成感を味わいながら、自信をもって行動するようになる。

### 協同性

互いの思いや考えなどを共有し、工夫したり、協力したりする充実感を味わいながらやり遂げるようになる。

### 道徳性・規範意識の芽生え

してよいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するとともに、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、決まりを作ったり守ったりするようになる。

### 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもったり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に一層の親しみをもったりするようになる。

### 思考力の芽生え

思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しみ、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

### 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、身近な事象への関心が高まったり、自然への愛情や畏敬の念をもったりするようになる。

### 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりして、数量・図形、文字等への関心・感覚が高まるようになる。

### 言葉による伝え合い

言葉を通して先生や友達と心を通わせ、豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、思い巡らしたことを言葉で表現して楽しむようになる。

### 豊かな感性と表現

感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりするようになる。

アプローチカリキュラムを通じて、学びに向かう力を小学校教育につなぐ

健康

人間関係

環境

言葉

表現

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」にねらいや内容として示されている5つの領域

〔幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)〕(平成28年12月21日中央教育審議会)を参考に作成

## 心豊かに人とつながる子ども

遊びや生活の中で様々な感情を味わい、感動できる心を育てます。楽しい、嬉しいといったプラスの体験だけではなく、悔しい、悲しい、思い通りにいかないといった体験も、子どもの成長の過程に必要なこととして大切にしながら、身近な大人がしっかりと支えることが大切です。乳幼児期の感情体験・感動体験が豊かな人間性や思いやりを持った人間の成長につながると考えます。

また、遊びや生活の中で、身近な大人や友達と過ごしながら、一緒にいることの喜びや安心感を味わうようになります。様々な葛藤を経験する中で、仲間とあそびや生活をともにすることの楽しさや充実感、役割分担や力を合わせる協同性などを感じ取り、自分なりの人との距離感やかかわり方を身につけていくのです。

## よく考え夢中になって遊ぶ子ども

遊びや生活の中で、興味や関心、疑問などに対してその原因を考えたり、追求しようとする力や、空想力や創造力を働かせて新しいものを生み出す力が学びの基礎となると考えます。そして、感じたり、考えたりしたことに対し主体的に関わり、試したり工夫したりして実行・実践していく力や、生きていく上で必要な基礎・基本の技術や知識を得ようとする力を身につけていきます。

## たくましく健やかな子ども

基本的な生活習慣を身に付け、食育や運動遊びを通して健康で活動的な体を作ります。そして「いのち」や人権を大切にする、心身ともにたくましい力を培っていきます。

遊びや生活、友達関係などの挫折や失敗を経験したときに、別の方法でアプローチしたり、自分の気持ちに踏ん切りや折り合いをつけたりして乗り越え、前に進もうという気持ちももてるたくましさも必要です。

また、やってよいこと、悪いことを体験の中で感じ取り、自分で考え、判断する中で、道徳性や規範意識の芽生えを培っていきます。

集団生活の中で自分や他人のよさにも目を向け、互いを認め合いながら自己肯定感を育み、自信が持てるようになることを目指します。

## 非認知能力（学びに向かう力）を育てる活動を充実させるための具体的なヒント

保育者が対話を通して、子どもの発想を豊かにしたり考えを深めたりすること

子どもがおもしろいと感じたり、関わったりしたくなる素材をふんだんに用意すること。すなわち環境を豊かにする。

### 「アクティブ・ラーニング」

#### 【深い学び】

習得・活用・探究の見通しの中で、教科等の特質に応じた見方や考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解につなげる「**深い学び**」が実現できているか。

#### 【対話的な学び】

子供同士の協働、教師や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

#### 【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

## 彦根市における今後の乳幼児教育のあり方

- 彦根市乳幼児教育・保育共通カリキュラムの理念（特に、非認知能力）の各園の教育・保育課程、指導計画での具現化。
- 彦根市乳幼児教育・保育共通カリキュラムの検証と改善。
- 「学びに向かう力」に焦点を当てた、保育実践の日常化。
- 学びの芽生えを意識した乳幼児保育の、幼児教育としての質の向上。
- 「学び」に視点をおいた保幼小連携研究の推進。